

平成23・24年度

埼玉県教育委員会指定 文部科学省

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究事業」

平成24年度

飯能市教育委員会委嘱・飯能市教育研究会委嘱

生き生きと自ら学ぶ 児童の育成を目指して

「自分の思いや考えを伝え合う力」を育む研究



平成24年10月26日(金)

飯能市立飯能第一小学校

研究の概要

「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要になってきており、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することが学習指導要領に明記されている。その基盤となるのが言語に関する能力であり、各教科等においてもその能力を育成することが重視されている。

本校児童についても、実生活に生きてはたらく国語の能力を身に付け、言葉で伝え合う能力を育むために、国語の時間における指導を図ることが急務である。これまでの研修を通して、自分の考えを自分の言葉で表現することが苦手な児童が多い実態が浮かび上がってきた。そこで、自分の言葉で考え、自分の言葉で伝えられるよう、各教科の言語活動の基盤として、まずは国語科において、表現する力として『伝え合う力』の研究を進めることとなった。

以上のことから、自分の思いや考えを言葉で伝え合えるような国語の時間をつくっていくことが「生きる力」を育成するために意義のあることと考え、本年度の主題を設定し、研究を進めている。

主 題

生き生きと自ら学ぶ児童の育成を目指して

副主題

「自分の思いや考えを伝え合う力」を育む研究

伝え合う力

目指す児童の姿

児童の実態

- ・コミュニケーション能力の幼稚さ
- ・表現力の乏しさ

対話
伝え合う

自分の考えや
思いを持つ

- ・意欲のある子
- ・一人読みのできる子
- ・自分の言葉で伝えられる子
- ・友だちの意見を受け入れる心を持った子

物語教材を中心に

- ・豊かな文章表現に触れる
- ・人の読みに触れ、自分の読みを深める



仮説

自分の思いや考えを書くことができれば、
「伝え合う力」を育むことができるであろう

思いや考えを持つ

頭の中で考える

自分なりの
まとめ方で書く

・自分の思考を高め、
考えを明確にできる。
(**考えの可視化**)

伝え合う

・自信がなく、
黙ってしまう。
・話がかみ合わなく
なる。

・自信を持って
言える。
・自分の考えを
透明化できる。

・自分の主張点が
はっきりする。
・相手の意見との
共通点や相違点が
見えてくる。
(**考えの透明化**)

一方的に
話すだけ、聞くだけ

双方向に
話し合える、聞きあえる

手だて

(1) 伝え合うために書く活動を取り入れる。

1時間の授業で必ず「書く」活動を取り入れることで、自分の思いや考えをよりはっきりとしたものにする。自分の思いや考えを整理するとともに、話し合いにおける自信にもつなげることができる。 「ワークシート」に書いたり、感想カード、ノートに自分の考えを書いたりすることを意図的に取り入れていく。

(2) 安心して話すことのできる場を設定する。

授業内で書いたものをもとに「ペア対話」「友だち同士で読み合う」「友だち同士(3~6人)で話し合う」など話し合い活動を通して友だちの考えのよさに気付いたり、自分の考えを深めたりすることができる。

(3) 言語環境を整え、言語感覚を養う。

語型・視写・作文用紙の使い方・漢字・文の構成・季節の言葉・慣用句・諺・敬語などの指導を折に触れ、取り入れる。また、「みのりの広場」など掲示環境を整え、日頃から目にする。言語感覚を養っていく。読書への興味を高めるとともに、読書活動を身近なものにしていく。

みのりの広場



あかるく・なかよく・たくましく
～ 見える実践・見える指導・繰り返しの指導による定着～

生き生きと自ら学ぶ児童

学習意欲
学び方
学ぶ態度
基礎学力

目指す児童の姿
自分の思いや考えを伝え合う子
伝え合う力の育成



一貫した指導

学習規律の確立

- あいさつ
- 返事
- 姿勢
- 歩行
- 清掃

一・小5つの実践

わかる授業
できるようになる授業
楽しい授業

目指す授業

仮説

自分の思いや考えを
書くことができれば
「伝え合う力」を
育むことができるで
ある

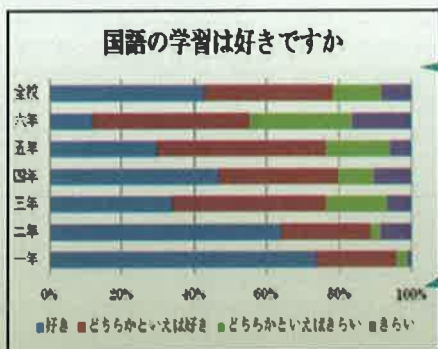
資料環境研究部
学習環境の整備
(クラス掲示・学年掲示、
みのりの広場)

授業研究部
「みのりの時間」の計画
国語スキル (視写)

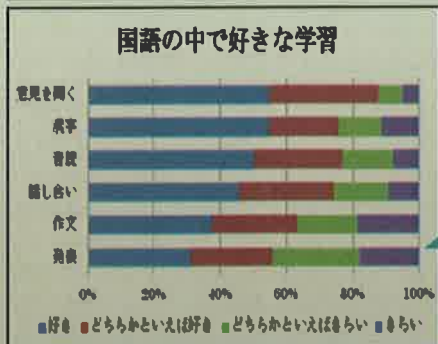
調査研究部
児童の実態調査
アンケート作成集計・分析



実態の把握



- ◆全校児童の中で、79%が「好き」と答えている。(「どちらかといえば」を合わせる)
- ◆低学年の児童は、「好き」と答える割合が多いが、中学年・高学年になるにつれて「嫌い」と答える児童が増えている。



- ◆嫌いと答えた21% (「どちらかといえば」を合わせる)は、発表と作文が嫌いだと答えた児童が多い。
- ◆発表が嫌いな理由には(恥ずかしい、自信がない、緊張する、声が小さい、どう言うのか難しい、等)がみられた。
- ◆作文が嫌いな理由には(説明が苦手、書き方や使い方に自信がない、思い浮かばない、長い、等)がみられた。

- ◆全体の中での発表は恥ずかしさや自信のなさがあ、積極的ではない。しかし、少人数グループでの話し合いを通して、意見を伝え、達成感を感じている児童が多い。
- ◆自分の意見を表現するのは自信がないが、意見の交流は主体的に活動できている児童が多い。

国語スキル(水)

10分間

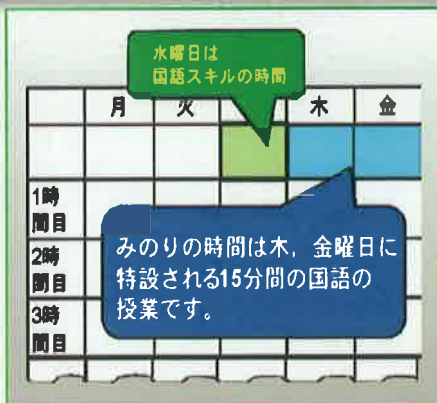


○各学年の目標設定

- | | |
|---------|---------|
| 1年…100字 | 4年…250字 |
| 2年…150字 | 5年…300字 |
| 3年…200字 | 6年…350字 |

○視写活動で期待する効果

- ①文章を正しく視写することで、内容を理解する力を高める。
- ②文章表現の技法や表記のルールを身に付けさせる。
- ③丁寧に書き続けることで、集中力や持続力を高める。



みのりの時間(木・金)

毎週、木・金曜の朝に15分間のモジュール学習を行っている。年間指導計画の中で、短時間学習により効果が上がると思われる「伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項」を中心に扱い、国語の学習をすすめている。

みのりの時間で取り組みそうな教材・学習活動

ここでの1時間は45分のごとで、みのりの時間3回分に当たる。

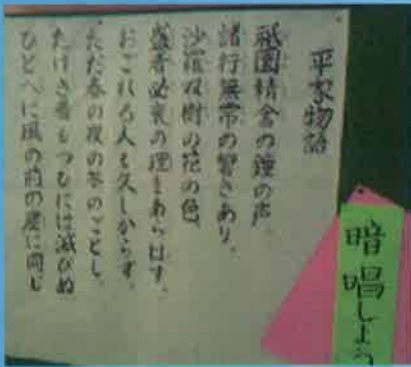
1年生

※1学期木・・・ひらがなや書写(硬筆)の学習にもあてられる。

月	単元名・教材名	時間	学習活動
4	どうぞ よろしく	1	自分を紹介する名刺を作る。
	おはなし よんで	2	読み聞かせを聞いて楽しむ。
5	あかい とり ことり	1	声に出して読むことを楽しむ。
	あいうえおで あそぼう	1	しりとりや言葉集めをして楽しむ。
6	なんて いっただい	1	ジェスチャーゲームをする。
	おさるが ふねをかきました	2	声に出して読むことを楽しむ。視写をして読む。
7	ひらがな あつまれ	1	ひらがな表をもとに言葉を探し、ノートに書き写す。

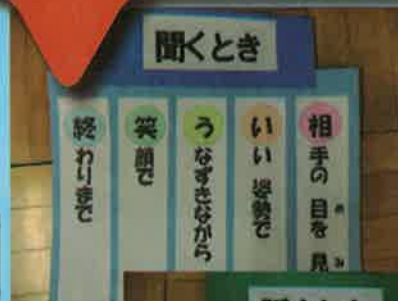
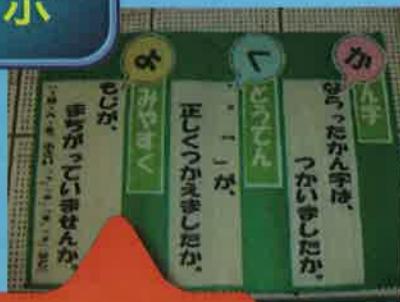
学年掲示

それぞれの学年ごとに暗唱などを掲示しています。

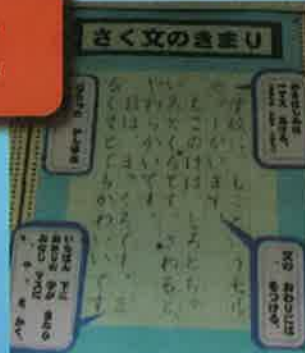
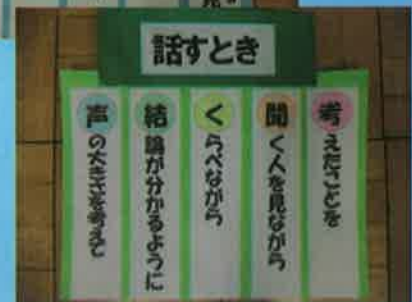


クラス掲示

聞くとき「あいうえお」
話すとき「かきくけこ」



かくよのやくそく



読書への取り組み

並行読書コーナー



一歩ずつの研究ですが

飯能市立飯能第一小学校長 澤田 清志

子どもたちの学力向上には、様々な工夫や手だてが必要であり、教師の指導力の向上が何より大切になります。本校は、「一人の35歩より、35人の一歩ずつ」を合言葉に研究を進めてきました。

本校の子どもたちの持つ課題に、コミュニケーション能力の稚拙さや表現力の乏しさがあげられました。この課題解決のため、「国語科を中心とした『伝え合う力』向上の研究」がスタートし2年目を迎えています。自分の思いを上手に伝えることができているならば、ケンカにならなかつたという場面もありました。授業中もう少し上手に説明することができれば・・・という場面もありました。自信がないから声も大きくなる・・・そんな、子どもたちの実態から、今年度は、伝えたり、聞いたりという双方向の「伝え合う力」向上の研究を進めてきました。

また、新学習指導要領における、言語活動を重視した位置づけや国語科における「単元を貫く言語活動の授業づくり」につきましても、文部科学省初等中等教育局教科調査官 水戸部修治先生をはじめとして多く指導者のご指導をいただきながらの研究です。まだまだ一歩ですが、ここにその一端を発表させていただきます。

主体的な発言力を育てる教育実践

飯能市教育委員会教育長 鯉沼 文夫

「教える能力とは、面白く教えることである」

これは、アインシュタインの教育観の一部です。子どもの心の琴線に共鳴を起こさせるような、好奇心を揺り動かす授業を教師に求めています。

本校の「みのりの時間」や相互交流の場を設定し主体的な発言力を育ててきた実践は、心の琴線に共鳴を起こさせる手立てそのものです。加えて、日々の教育活動をとおして築いてこられた教師と児童との信頼関係に立つ学級経営が実を結んだ研究実践校に相応しい研究成果です。

校長先生をはじめ諸先生方が、厳しい姿勢で研究に打ち込んでこられたことに、敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

研究に寄せて

飯能市教育研究会長 中村 昭司

飯能第一小学校では、「生き生きと自ら学ぶ児童の育成を目指して」をテーマに国語科で「自分の思いや考えを伝え合う力」を育む研究を積み重ねてこられました。

児童、生徒の言語活動の充実が重要とされる今、書くことを通して自分の思いや考えを伝え合う研究は、時宜を得た研究内容であり、多くの示唆をいただけると思います。

校長先生をはじめ飯能第一小の教職員の皆さんの真摯な態度と熱意に敬意を表し、この研究にご指導ご支援くださった関係各位に厚く御礼を申し上げます。また、飯能第一小の研究の成果が、大きく会員の皆様のものとなることを祈念し、あいさついたします。

ご指導いただいた先生方

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 総括研究官 教育課程調査官 学力調査官 水戸部修治 先生

埼玉県教育局西部教育事務所指導主事 岡島 満 先生

川越市立中央小学校長 加藤 伸二 先生

川越市立高階北小学校教頭 伊藤 真 先生

吉見町立南小学校教頭 大木 聖子 先生

ふじみ野市立福岡小学校教頭 吉田 和実 先生

所沢市立北小学校教諭 宮岡 章好 先生

研究に携わった教職員

《24年度》 澤田 清志 中村 一博 星 嘉一 高杉 典生 矢萩 武彦 岡本 光一 茂木 秀夫 山口 芳孝
福島 喜子 内田恵美子 小川恵美子 尾上 清香 酒本 幸子 加藤 知美 谷口 晶子 須田 敦子
金子阿友美 小泉 純子 黒澤 精二 山田摩利子 福島 明美 藤田 良子 根岸 一男 大貫 綾
高頭戸木子 中村 和弘 山口 則弘 水橋 紀恵 野口 晋平 塩澤真由美 浅見 健司 香川 信子
関根 敏志 岩田 朋子 大野 好美 川原 達彦

《23年度》 相澤 輝久 両角 典子 吉野 強 山口はつね 中島 昇 大谷木 瞳 上 菜央子 児玉日左治
中澤 俊江 川田大五郎